2017/2/4
横浜国立大学大学院 教育学研究科
右藤 文弥

「哲学対話」 授業分析の試み

1. 研究の背景と課題

高等学校「倫理」は公民科の一科目であるが、高校における道徳教育充実の要請のなかで設置されたという経緯があり、社会認識を通して公民的資質を育成する公民科と、道徳的判断力・実践力を育成する道徳教育という二重の性格を持ち、体系的な授業論を構築できずに今日に至っている。また、「倫理」の内容の実質が不明確であるために、内容と教科書が同一視され、思想史の知識伝達に偏った授業が行われてきたという問題もある(工藤、1996)。「倫理」 が思考力や洞察力の育成、自己形成といった本来の役割を果たすために、日本学術会議哲学委員会(2015)は<知識中心の倫理>から<考える倫理>への転換を提言し、思考力育成の主要な技法の一つとして「哲学対話」を挙げている。

Philosophy for children(P4C、学校における「哲学対話」)は、アメリカのリップマンによって 1970 年代から普及し始めた哲学の教育方法で、身近なテーマや物語などを題材に子どもたち自身で問いを決め、考えを深め合いながらも、かならずしも結論は出なくてよいといったタイプの対話活動である(河野、2014)。それは、知識の習得・体系化というよりも、安易に絶対的なものを求めず、既有知識を批判的に吟味するソクラテス的対話に近く、教室を「探求の共同体[1]」に変える試み(リップマン)といえる。国立教育政策研究所の「21 世紀型能力」では、思考力の要素として「問題解決・発見能力、創造力」「論理的・批判的思考力」「メタ認知・適応的学習力」を挙げており、ものの見方・考え方自体を吟味する学習は、重要性を持つと思われる。

とはいえ、授業としての「哲学対話」は、一部の学校[2]を除いて、(実施されるとしても)教育課程から切り離された特別授業的な扱いで行われることが多く、日本の既存の授業実践や教育課程と関連づけた目標・内容・方法などの検討が欠けている(宇佐美、2013)。本稿は、その手がかりとして、実践事例の分析を通して一時間の対話過程の構造的全体像を明らかにすることを目的としている。

2. 研究方法

「哲学対話」は、内容も展開過程も通常の授業とは大きく異なる上、自由度の高い実践であるため、授業における会話のルール・型や教室特有の談話構造を明らかにした既存の研究[3]に依拠したり、創始者リップマンの理論枠組みをそのまま当てはめたりするのではなく、まずは実際の対話過程を整理して全体構造を抽出し、事実の中から課題を設定するのが有効と考える。よって、以下の方法で授業記録を分析した[4]。

①授業記録をもとに「発言表[5]」を作成し、発言者・発言の長さ・概要をまとめ、各発言のもつ機能的特性に対してコードを割り振る。

---

[1] 学校における「哲学対話」を表現した理念。パースが可謬主義の立場から、研究者の集団内における一致をめざしてのみ真理の探求は可能である、とみなしたことから来ている。

[2] お茶の水女子大学附属小学校は、「教育課程全体で人間性・道徳性と思考力を関連づけて育む」ことを研究開発課題として、「てつがく」科を設置している。

[3] ベラック(Bellack)は 1960～70 年代、会話データをコード化して数量的分析を行ったが、研究上の関心は会話のルールや型を明らかにすることにあり、授業の主題や内容は対象とはされていない。また 1970～80 年代にかけては、メハン(Mehan)が I-R-E(導入－応答－評価)の分析枠組みをもとに教室特有の談話構造を明らかにした(村瀬、2005)。

[4] 基本的な考え方として重松(1961)を参照したが、本稿では、特定の「分節」の詳細な解釈は行わず、2つの授業の全体構造を抽出することに主眼を置いた。

[5] 中村(1987)が考案し、田代(2010)らが改良した授業分析の補助資料。田代の発言表は、発言の長さ(授業記録の2行分＝1単位とする)・概要のほか、頻出したキーワード(「主要な言葉」)を掲載している。実物は本稿 p.6 を参照のこと。

②発言者、話し合われている主題、各発言の特性に着目して授業を「分節」に区分し、各分節の関連を構造化する。
③上記②をふまえ、2つの実践例の比較・検討を行う(まとめ)。

3. 分析対象

(1)学年・クラス等

K 大学附属中等教育学校 N 教諭が担当する中学3年生[6]「国語」の授業(2016 年 2 月)。進行役生徒(国語リーダー)が議事を担当し、担当教師も対話に加わる。

(2)内容

森鴎外『高瀬舟』を読み、考えたい「問い」を生徒が作成。問いを多数決で選んで対話を行う。

→ 事例 A「知人が自ら死を選ぶとしたらどうすべきか」

→ 事例 B「意思を考える力が欠如した人は、安楽死させるべきか」

(3)単元の展開

時	主題	ねらい	評価の観点
	事前調査	・ 対話と読解に関する事前調査。	
【一次】 1～2 時	新聞記事を読む	・ 「進行役の手引き」を理解することができる。 ・ 複数の記事を読み解くことができる。 ・ 記事から現代的な安楽死問題を理解することができる。	Ⅳ Ⅴ
3 時	問いの基準を考える（P4C）	・ 良い問いの基準をあげて，問いを選ぶことができる	Ⅱ Ⅲ
4～5 時	高瀬舟を読む	・ 小説全体を音読し，概要をつかむことができる。 ・ 新しく知った言葉の意味を理解できる。	Ⅰ Ⅴ
6～8 時	議論の共有物をつくる	・ 高瀬舟縁起を読み，鷗外の意図を読み取ることができる。 ・ 知足の背景（財産の問題）を理解できる。 ・ 庄兵衛，喜助の話から状況，動機，心情を読み取ることができる。 ・ 語りの構造を理解することができる。	Ⅱ Ⅳ
【二次】 1 時	問いを選ぶ（P4C）	・ 問いを立て，基準に従って問いを選ぶことができる。	Ⅰ Ⅱ
2～3 時 **(本時)**	読解から対話へ（P4C） 1 組のみ 1 時間	・ 「高瀬舟」について対話し，意見の理由や根拠を明確にすることで読解を深めることができる。	Ⅱ Ⅲ
4～5 時	ブックレポート	・ 前時の対話の感想から，必要な情報をまとめ，考えを書くことができる。	Ⅲ Ⅳ
	事後評価	定期考査 ・ 小説の語彙の意味に関する問題。 ・ 小説の内容読解に関する問題。 ・ 小説から問いを立てて論じる小論文問題。 ポスター作成 ・ 子どもの哲学についてのポスター	

[6] この生徒たちは中学2年次から3年次にかけ、週 1 回程度、「哲学対話」を行ってきた。クラス全員(約 40 名)で対話することもあれば、半分が対話し半分が観察するという形態を取ることもある。事例 B は前者、事例 A は後者である。

4．授業分析

(1)事例 A（**問い「知人が自ら死を選ぶとしたらどうすべきか」**）　＊詳細は「発言表（事例 A）」を参照のこと。

(a)発言状況

事例 A において、教師の発言は 21 単位[7]、生徒の発言は 66 単位であり、比率は 1 対 3.14 であった。生徒のうち、最も発言が多かったのは A と C（それぞれ 10 単位）、一度も発言しなかったのは Q である[8]。

全体を概観すると、生徒が、視点を変えたり、実体験にもとづく事例を挙げたりすることによって議論が次の段階に進む一方、教師は、発言しやすい場づくり（安全性の確保）、論点の焦点化、視点の変更（こんな風にも考えられるのではないか）、テキストの解釈等を促す発言を通して、ファシリテーターとして議論を方向付け深める役割を果たしている。また、対話が進むにつれて一人一人の発言が少しずつ長くなっており、議論に参加することで、ある程度まとまった考えが形成されたり、問いに関連する経験や知識の再構成が進んだりした可能性がある。なお、途中で主張を変える生徒は見られなかった。

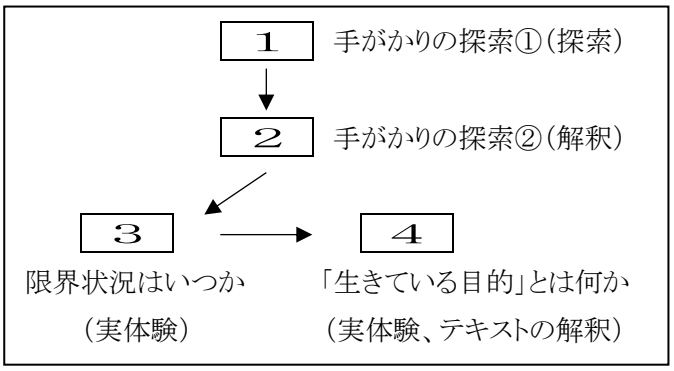
(b)授業の展開過程と構造

第1分節では、進行役 A が問いを提示したあと、問いの提案者 B が趣旨説明を行っている。生徒たちは「考えがまとまっていない」等と述べ、率直にわからないことを表明している（6～11）。これに対して教師は、自分自身もよく分からないと表明し、生徒への共感を示している(12～14)。教師の発話には、生徒が発言しやすい場を作る効果もあったと思われる。以後、生徒たちは、「大人に知らせる」「相談に乗る」というような、いわば常識的対応を列挙しながら、議論の手がかりを徐々に探索しているように思われる（15～24）。なお、ここまでで、大半の生徒が初回の発言を行った。

第2分節も引き続き、議論の方向性を模索している段階といえるが、A が、知人に「死にたい」と打ち明けられたときの心境を想像することで、第1分節よりも当事者の立場に立った議論になっている(25)。T は、「死にます」という知人からの告白が、そのニュアンスに応じて 2 種類の意味内容を持ちうることを指摘し(28～30)、C は T の発言を引用し、自分なりの解釈を加えている（34～35）。「問い」の解釈や相互作用が始まったと見ることができる。

第3分節では、E の「自殺の理由がひどくて、そこで納得せざるを得ない状況だったら、別に死ぬんでもいいと思う」との発言（36）に対して、I が「最後の時点って、どういう時ですか」と定義の明確化を求めたことによって、自殺や安楽死が正当化されるような限界状況についての議論が展開される。教師も、限界が来るとはどういうことなのかと質問し、議論の焦点化を行っている（39～40）。H は、叔父が人工呼吸器を自ら外して亡くなったという話を挙げ(41)、自分の実体験に引きつけて考えようとしている。

第4分節では、F が、祖母が癌を奇跡的に克服したという実体験をもとに、「どんなことがあっても生きる希望を持たないといけない」と述べ（57～58）、これ以降、「生きている目的」に関する議論が続いた。終末部分では、教師が介入してテキストに焦点を戻し解釈を提示したところ(78～82)、C が異論を展開している(83～85)。最後に、I が別の問いを派生させたところで授業は終了した(87)。



[7] 授業記録の4行分を1単位として計算した。

[8] 「哲学対話」では基本的に発言を強制されることはない。発言を希望する者は、コミュニティボール（毛糸を巻き付けてボール状にしたもの）を持って発言する（このボールを持っている者だけが発言することができる）。

主にテキストから離れたところで展開し、最初とは異なる「問い」に帰着した本実践の構造は、左記のように図示できるだろう。教科教育の枠組からの逸脱[9]とみなす見方もあり得ようが、読むことを「主体が、多元決定性をもつテキストと取り交わす相互作用の質に応じて多様な経験へと開かれたもの」(岩川、1989)と考えるならば、実体験と切り結びながら生徒同士の(および教師との)相互作用のもとでものの見方・考え方を吟味し、さらなる問いを生み出した本実践は、従来の教科教育を相対化する要素を含むともいえるのではないか。

⑵事例 B (**問い「意思を考える力が欠如した人は、安楽死させるべきか」**) ＊詳細は「発言表(事例 B)」を参照。

(a)発言状況

研究授業として行われた事例 B においては、教師の発言は 11 単位、生徒の発言は 118 単位であり、比率は 1 対 10.7 と、事例 A に比べて生徒の発言が多い。特に、D は 26 単位、A は 17 単位、J は 15 単位と、活発に発言した。まったく発言しなかった生徒はいなかったが、F・L・N の 3 名は 1 単位にとどまった。

事例 A と比べて、全体的に一人一人の発言が長い上、後半になるにつれて発言が長くなる傾向がより明瞭に出ている。また、A の発言(64)に対する D の発言(92)のように、だいぶ前の発言に言及しながら意見を述べる場面もあり、議論の展開を追いつつ、関心を持った発言と結びつけながら思考していたと思われる。教師は、安全性の確保や論点整理、全体への投げかけなどを行ったが(28～31、71～73)、生徒同士の議論が活発であったためか、介入は控えめであった。途中で主張を変える生徒は見られなかった。

(b)授業の構造と展開過程

第 1 分節では、問いの提案者 B が趣旨説明を行ったあと(2～4)、進行役 A が、「安楽死」の定義や「意思を考える力の欠如」をどのように考えるかが論点になり得るのではないかと述べ、議論の見通しを築こうとしている(5～7)。

第2分節では、「意思が欠如している」を「思ってることをそのまま口にしてるような状態」と定義した C の発言(10)をきっかけに、「意思(考える力)が欠如しているとはどのような状態か」について D が主張を展開し(12～13)、感情的になるなどして正常な思考力を失ったときの判断は尊重しないほうがよい、と述べている(27)。

第3分節では、教師が第2分節での D の発言を評価した上で(29～30)、「『高瀬舟』の喜助の弟は、意思を考える力が欠如していたといえるか」という論点を提示し、これまでの議論をもとにテキストの解釈を行うよう、方向付けを行っている(31)。他の分節では発言していなかった生徒(F)がこの分節では発言しており(35)、自由な討論に比べ、テキストを手がかりにすることで考えやすかった可能性がある。分節の末尾で I が、祖父が癌で亡くなった体験を元に発言しようとしたが途中で詰まってしまった際(50～51)、進行役 A が介入し、あとで発言するよう声かけを行うなど(52)、生徒間でも安全性を確保しようとする(発言しやすい場づくりの)配慮がみられる。

第 4 分節では、J が、曾祖母の認知症を実体験として例に挙げ(54～58)、ここから安楽死の是非について議論が展開する。A は、正常な判断力がある時は安楽死を認めるべきだと述べる一方、認知症だからと言って殺すことはしたくないと述べ、両義的な態度を表明する。また J は、考える力が欠如しても感情が働いていると述べ、考える力の有無が安楽死の基準ではないという議論を展開している(61～63)。

第5分節では、教師が A や J の発言に共感を示しつつも、当初の「問い」を確認し、議論の方向付けを行っている(71～73)。H が、A や J の発言に対して、安楽死が禁じられるのは、それを認めた場合に周囲の人々が傷つくからではないかと疑問を投げかけ、安楽死問題の本質を、周りから見た人の心の問題であると規定している(79)。これに続く J の発言は、医療の進歩やペットの安楽死に関するもので、H の問題提起からは逸れているといえる(82～90)。

---

[9] 本時だけでなく、単元全体の計画(本稿 p.2)に着目すると、「読む」「書く」「話す」がバランスよく展開されているように思われる。

第6分節では、第 4 分節の A の発言(64)を D が引用することで、本人の意思にもとづく安楽死の是非に再び問題が焦点化される(92～98)。D は、第2分節で述べていた主張（一時的な感情に流された判断にもとづいてはいけない）を繰り返し、その根拠として、裁判はえん罪が起きないように再審が可能だが、死んだら取り返しが付かないことを挙げている。これに対して O が反論し、精神的に追い込まれているからこそ、本人の意思を尊重すべきだと述べる(99～100)。P が安楽死への反対を表明しつつ、「ご飯を食べるのに意思は要らない」と述べ、D や O が用いているのとは異なる「意思」のあり方に言及したところで(127～129)、授業は終了した。

本実践は多様な論点を含みつつも、当初の問いに向かって展開し、テキストの解釈にも配慮がなされている（右図）。途中で同じ主題を扱う場面が出てくるが（第 4 分節と第 6 分節）、第 6 分節のほうが論点が明確になっており、議論が深まったと見ることができる。

1 論点の探索
↓
2 「意思を考える力が欠如している」とは、どういうことか？
↓
3 テキストの解釈（喜助の弟は、意思を考える力が欠如していたか？）
↓
4 安楽死の是非
↓
5 安楽死の本質（周りの人の心の問題）
↓
6 安楽死の是非（「本人の意思の尊重」を論点として）

(3)まとめ

両実践に共通する構造は、考える手がかりや論点の探索から着手し、「問い」を解釈したり別の視点で考えたりしながら、（一部の生徒が挙げた実体験としての）具体的事例と結びつけて議論を展開するというものであった。教師は、発言しやすい場づくり（安全性の確保）、論点の焦点化、視点の変更、テキストの解釈等を促す発言を通して、ファシリテーターとして議論を方向付け深める役割を果たしているが、教師主導の展開になっておらず、教師と生徒の一対一対応も少ない。他人の発言をふまえた発言が多いことからも、生徒が他生徒の発言をよく聴いて受け止めているといえる。

哲学対話は、必ずしも結論を出したり話をまとめたりする必要はなく、実践 A のように当初の問いとは異なる地点に帰着することもめずらしくない。河野(2014)は「哲学対話におけるオープンな終わり方は、自己認識が完了していないこと、自己変容に終わりがないことの表現なのです」と指摘しているが、従来の教科教育にはないこうした特性(本稿 p.4)を詳細に検討することが、教育課程における位置づけの明確化につながるだろう。

「哲学」の定義は多様で困難ではあるが、既存の知識を吟味し、世界や人間のあり方を全体的連関において反省的に考察する営為とみなす論者は少なくない[10]。哲学対話の持つ「哲学」性を、現代の教育課題と関連づけ、哲学的探求の社会的・教育的意義[11]を考察することも、今後の課題の一つである。

5. 論点および今後の研究課題

(1)本日の論点

(2)今後の課題

---

[10] 啓発的な哲学入門書を著したラッセル、ヤスパース、三木清、田中美知太郎、岩崎武雄、廣松渉、渡邊二郎は、学説上の立場は異なるものの、哲学を科学的知識や常識（日常の知）に対する批判（知識批判）と捉え、専門諸科学との関係において哲学的探究の固有性を見いだす点では共通している。

[11] 森(2009,2010,2011,2012)は、ギデンズの再帰的近代論にもとづきながら、哲学的対話によって自己を再構成する市民性（シティズンシップ）教育としての哲学教育を提唱している。

【参考文献】　※授業記録を公開し、問い合わせにも応じてくださったＮ先生に感謝します。

工藤文三(1996)「高等学校倫理科に関する教科教育学的考察」『公民教育研究』vol.4

河野哲也(2014)『「こども哲学」で対話力と思考力を育てる』河出ブックス

宇佐美寛(2013)『教育哲学問題集―教育問題の事例分析』東信堂

村瀬公胤(2005)「授業のディスコース分析」　秋田・恒吉・佐藤(編)『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会

重松鷹泰(1961)『授業分析の方法』明治図書

中村亨(1987)「発言表を使用する授業分析 ： 授業における子どもの相互関係にふれて」『教育方法学研究』12 巻

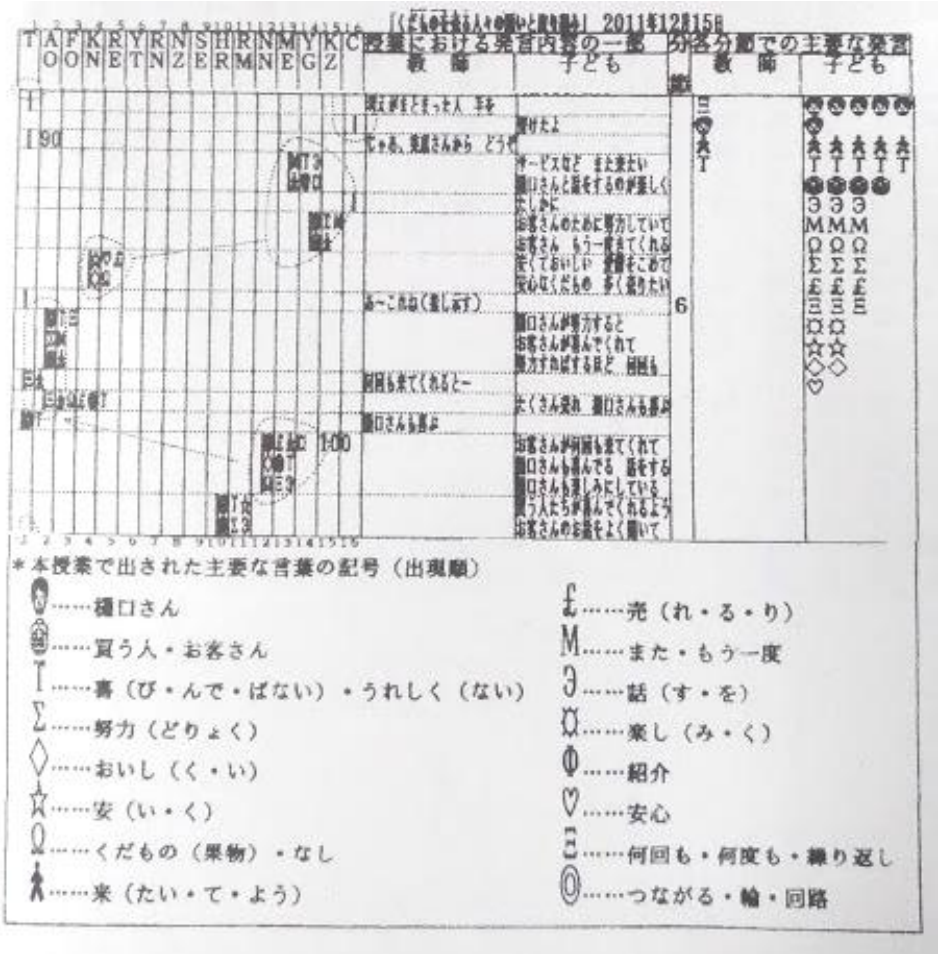
田代裕一(2010)「授業実践の様相－解釈的研究　グループ活動を含む授業事例の分析」『教育方法学研究』35 巻

関口靖広(2013)『教育研究のための質的研究法講座』北大路書房

岩川直樹(1989)「授業における相互作用の質的研究」『東京大学大学院教育学研究科紀要』29 巻

森秀樹(2009-2012)「再帰的近代のアポリアと市民性教育の課題--グローバル化時代の市民性教育としての「子どものための哲学」(1)-(6)『兵庫教育大学研究紀要』

【参考資料】田代(2010)の「発言表」(紙面の関係で一部のみ掲載)



No	教師	生徒																					発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U			
1		1																					今日の問いが、知人が自ら死を選ぶとしたら自分はどうするべきか、なんですけど。	1 手がかりの探索①	問いの提示
2		1																					（Bへ）問いがどういうのを話し合いたいかみたいな、お願いします。		
3			1																				知人って書いたんですけど、できれば死んでほしくない人っていうのを前提においてほしくて。		問いの定義
4			1																				死を選ぶ理由はイジメを苦にしてでも精神的に病んじゃったでも、病気になって最終的に死ぬでも。		
5		1																					高瀬舟の場合でもいいし、友だちとかそういうのでもいいんで、意見みたいなのある人いませんか。		
6				1																			ちょっと考えがまとまってないです。		無知の表明
7					1																		はやい、はやい、はやい。もうちょっと。		無知の表明
8						1																	おれも。		無知の表明
9							1																なんでおれ。		無知の表明
10								1															おれ自殺すんねんって言われても、そんなん起きるって思ってないんで。正当な対応ができるとは思えないです。		問い自体への疑問
11									1														まずはその理由を聞いて、それで自分を考える。あんまり話まとまってないです。		常識的対応
12	1																						いやむつかしいですね。これほんとにむつかしいですね。		安全性の確保
13	1																						なんでばーっと何人かが回したのかよく分かってきました。		
14	1																						理由を聞けない場合もあるはずなので、難しいですが、状況を理解して止めるはずです。		常識的対応
15										1													突然言われても信じない。病んでるっていう状態になってたら気づくと思うんですね。		
16											1												まずは他の大人の人に知らせたりはして、とかすると思います。		常識的対応
17												1											とりあえず相談に乗って、自分ができる最善のこと、えっと助けたいなという風に思います。		常識的対応
18													1										あなたが死んだら悲しむ人はいっぱいいるよって伝えて、それでも死にたいっていうんやったら、私は手伝うかな。		
19													1										ほんまにその人がいなきゃ生きていけないっていうレベルやったら、あたしも一緒に死にます。（共感的ざわめき）		共感
20														1									自分に言ってきたってことは、大事な友達だからと思うんで、とりあえず話は聞くと思うんですけど。		常識的対応
21															1								打つ手がなく、痛みを和らげる方法がないっていうのだったら、死ぬことに賛成します。		
22																1							全力で止めはするけど、死を助けたりすることはたぶんないと思います。		常識的対応
23																	1						ほんとに死にたいっていうことを感じたら、たぶん、その本気で捉えようとすると思う。		
24																			1				なんかの出来事があって、その時だけ言ってるかもしれないから、とりあえず落ち着かせて理由を聞く。		常識的対応

No	教師	生徒																				発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U			
25		1																					側にいてるのに、そんなことを言われちゃったじゃないけど、ちょっとショック。	2 手がかりの模索②	視点の変化（当事者性）
26		1																					高瀬舟のお兄ちゃんの人も、自分にも責任があると思ってやったっていうのもあるんじゃないか。		テキストの解釈
27																				1			助けれるレベルなら私は助けようと思うんですけど。		常識的対応
28																					1		死にますっていうのを伝えるってことは、二個あると思って。		解釈（状況の区別）
29																					1		一つはその病気で安楽死したいみたいな話か、		
30																					1		なんかかまって欲しいというか、助けて欲しいんじゃないかと思って。		
31					1																		いろんな人に迷惑かけると思うんで、誰かには相談するんじゃないかなって思います。		常識的対応
32							1																自殺を考える引き金となった原因を解決してから、心のケアに入った方がいいと思います。		常識的対応
33								1															いろんな人に迷惑がかかったりするんで、止めるのが一番の選択肢なのかな。		常識的対応
34				1																			構って欲しいみたいなことを言ってたけど、死を選ぶとしたらっていうことで、		他人の発言をふまえる
35				1																			気持ちに整理が付いて、今から死ぬことを報告してきたらどうするかを考えるのかなと思った。		問いの解釈
36						1																	自殺の理由がひどくて、そこで納得せざるを得ない状況だったら、別に死ぬんでもいいと思うけど、実際はしません。	③ ┐限界状況は	常識的対応
37										1													どうしようもない時点って、その最後の時点って、どういう時ですか。		質問
38				1																			喜助の弟のように病気が悪化して手の施しようがなくなったときとか。限界に来たと当人達が思ったとき。		応答
39	1																						助からないって思ってても、医者を呼びに行くことはできましたよね。		反論
40	1																						限界が本当に来てたらって、どうなったらそうなるのか。		質問(焦点化)
41									1														去年、お父さんのお兄ちゃんが死にました。脳内の血が固まって植物人間になった。		例示（実体験）
42									1														（人工呼吸器を）自分で抜いて、まあ死にましたという話。		
43	1																						はあー。自分で抜いたっていうことは、それはその植物状態に自分はなってるから。		
44									1														少しは意識を持ってて、自分から動けるみたいな話。		例示（実体験）
45	1																						で、自分でも動けた。それを使って抜いた。あー。		
46									1														それも自殺行為じゃないかなみたいな。		例示（実体験）
47	1																						志賀直哉は似たようなことをしました。おれは、自然のまま死にたいと言って全部自分で抜いた。		例示

No	教師	生徒																				発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U			
48	1																						H君はそれはもうどうしようもない時点やったって思います？	いつか」	質問
49									1														まあ、その人が苦しんでるわけだから。死ぬ方がましかなと思います。		応答（根拠を示す）
50	1																						なるほど、どうでしょう。植物状態で延命されてるだけの状態やったらっていう意見が出されたわけですよね。		全体への投げかけ
51															1								（Hへ）そのおじさんっていうのは、回復の見込みあったんですか。		質問
52									1														たぶん、ないと思う。		応答
53																						1	延命治療とかを望まない人は自然のまま死にたいと思ってるんで、そこは賛成するかな。		
54	1																						本人が望むから？		質問
55																						1	はい		応答
56											1												ちょっとよくわからないです。		無知の表明
57							1																僕のおばあちゃん、癌でもうこれは治らないって言われて、まだ出ていない薬で奇跡的に治って。	④「生きてい	例示（実体験）
58							1																やっぱり、どんなことがあっても、生きる希望を持たないといけないかな。		
59								1															かぶるんですけど、そうやって少しでも助かる可能性があるんなら生きるべきだ。		他人の発言をふまえる
60				1																			本人に生きる目的があれば、そもそも自殺を選ばないと思う。		他人の発言をふまえる
61				1																			Fのおばあちゃんだったら、孫の成長とかを見たいと思うかもしれないし。		応答（根拠を示す）
62										1													自分で死のうとするときに限界の時点ていうのはないと思うんですね。Fの言ったように、生きる希望を持たないといけない。		
63	1																						生きる目的があれば生きるだろうと言ってくれたんですが、すごく分かるんですよね。		全体への投げかけ
64	1																						でも、自分はいつも目的があって生きてるかって言われると、そうでもないような気もしてくる。		視点の変更
65	1																						ただ生きてるっていう状態もありうるような感じがしている。すいません、何でもないです。		
66				1																			目的は、死にたくないから生きている。死にたくないという目的が崩れて、死を選ぶんじゃないか。		応答
67	1																						せっかくなんで、誰か。		
68		1																					命のおわるかもしんないって時に、その死にたくないから生きてるみたいな、そういうの。		
69		1																					死ぬかもしれないってなったときに、わかるのかなって。ちょっと思いました。		
70											1												今日生きる目的はそんなにないと思うんですけど、もっと未来の、将来の夢とかがあると思うんですけど。		
71											1												生きる目的がまあ必要かなと思いました。		常識的対応

No	教師	生徒																				発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U			
72												1											Aと一緒で、死ぬ直前とかになったら、生きてきた意味とか生きる目的っていうのが分かるんじゃないか。	る目的は何か」	他人の発言をふまえる
73																	1						いま生きているのは、死＜楽しいからであって、何かをしてて楽しくなってるから生きるだけ生きたい。		
74																	1						植物人間だったりすると、死んでもいいんじゃないかって気持ちになって、死にたいって思うんじゃないか。		問いの派生
75		1																					インターンシップで病院に行ったとき、管でつながれてるから生きていられる患者さんも多くて、		例示（実体験）
76		1																					最初は家族がお見舞いに来てくれるけど、だんだんできることが少なくなって、来てくれなくなる。		
77		1																					そうやって生きてるのが本当に正しいのかなっていうのは、見ててちょっと思っちゃって。		
78	1																						変なこと言ったらすいません。問いは、知人が自ら死を選ぶとしたら、自分はどうすべきなのかですね。		最初の問いに戻る
79	1																						弟は兄貴に迷惑をかけてるんですよね。弟は罪の意識はあったはずなんですよね。		テキストの解釈
80	1																						で、それは目的にならないですか。兄貴に迷惑をかけてるってことが生きる目的にはならないか		
81	1																						負担やけど、弟のために働いてるっていうのは、生きる目的の一つであっていいと思う。		
82	1																						だから、やっぱり兄貴は間違ってたんちゃうかなあと。		
83				1																			苦しんでいる人がいるおかげで自分が生きようと思ってるのは、一種のエゴなんじゃないか。		反論
84				1																			苦しんでいる人からすると、いま自分が生きていることで、不特定多数が生きようと思っているなんて気づかない。		根拠を示す
85				1																			他人が自分のために生きようと思っているからといって、死ぬのを止めるのは身勝手かな。		
86	1																						あと一人くらい行きますか。		
87										1													（さっきのお見舞の話）なんで人は相手が何もできなくなれば、もう相手にしなくなるのか		問いの派生
計	21	10	2	10	2	2	4	3	7	4	4	2	2	1	2	1	3	0	1	1	3	2			

No	教師	生徒																発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P			
1		1																（授業の主題とねらいの確認）問いについての解説を、Bさん（発案者）、お願いします。	① 探索	問いの背景の説明
2			1															自分の祖母が認知症、アルツハイマーを発症。進行するにつれて、暴れたり「死にたい」と言ったり。		例示（実体験）
3			1															その時の出来事がすごい自分にはショックで。この問いを考える時間に思いついた。		
4			1															アルツハイマーの人が、自ら死を望んだときにどういう対応をするかというのを考えてしまう。		
5		1																「安楽死」の定義や「意思を考える力が欠如している方」とか、突っ込んでいけるんじゃないか。		焦点化
6		1																「安楽死」はその人自身が死にたいと自分で決めて、死ぬ手伝いをしてもらうもの。		焦点化
7		1																新聞記事にもあったように「意思を考える力が欠如している」は簡単に言えるものでもなく、勝手に考えて殺していいのか。		事実の参照
8				1														まず「自分の権利がどこまではたらくのか」という問題に繋がっていくと思う。		焦点化
9				1														他のことは自分で決められるのに、死ぬ瞬間だけは自分で決められないのもおかしいのかなと思う。		根拠を示す
10				1														「意思を欠如してる」は、本当に思ってることをそのまま口にしてるような状態かなと思う。	②「意思が欠如するとは？」	焦点化
11				1														もしその人が「死にたい」と言ったのなら、本当にその人は「死にたい」って言ってるんだろう。		推論
12					1													意思が「考える力が欠如した人」が本音を言うかっていうと、違う。		別の解釈
13					1													考える力がないから、目の前から逃げてる感じ。その人の本音か？と言われたらたぶん違う。		
14						1												「意思を考える力が欠如する」は一時的なものでなく、一回あったらほぼ治ることなんてない。		別の解釈
15						1												D 君の言い方だと「治る」ってことになるので、ちょっとどうかな。		他人の発言をふまえる
16					1													そうではなく、前の人格の判断と、その後の人格の判断が違うから、的なことを言いたい。		
17	1																	（Eへ）なんか言えることある？		他人の発言をふまえる
18						1												D 君に、反論というかちょっと訊きたいんですけど。		他人の発言をふまえる
19						1												後者（異常な考え方を持った意思）には人権は認めないと聞こえたんですけど、どうなんですか。		質問（意味の確認）
20					1													いや、		
21						1												ちょっと質問で、すいません。		
22					1													苦い体験談になるんですけども、あるところに、すっごいゲームをしたい少年がいました。		例示（実体験）
23						1												誰かがね。お話の中で。		
24					1													親にゲーム隠されたりしてぶちギレます。その時の少年は、未来の少年から見ても異常です。		例示（実体験）

No	教師	生徒																発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P			
25						1												ああ。		
26					1													親が戻ってきてぶちギレて全面戦争になって。全面戦争が終わってからの自分が見たら、		例示（実体験）
27					1													「なんてことをしたんだ」になる。その時の異常な人権はあまり認めない方がいいかな。		
28	1																	緊張してますね。えー、リラックスしましょう。	③ テキストの解釈	安全性の確保
29	1																	Dが言ってくれたのは、ある昔の経験と今の経験が、人格として独立している感じがする。		論点整理
30	1																	問いを考えるのに非常に重要ですし、多分今まで出た意見かなり色んな要素が入ってました。		発言への評価
31	1																	「意思を考える力が欠如する」は高瀬舟の喜助の弟の場合、どうなります？意思を考える力が欠く？		全体への投げかけ
32			1															この文章(p.130 l.2)では、弟から直接、喜助に言葉で「早く抜いてくれ」とは言ってない。		テキストの解釈
33			1															「意思を考える力が欠如している」は、「意思を伝える力が欠如」していても言えることだ。		定義
34			1															この弟は意思を考える考える力が欠如していると思いました。		
35							1											この前に「口を利いて」とあり、自分の意思で口を利いて「抜いてくれ」って書いてあると思う。		テキストの解釈
36			1															口から言っていない、けど、まあ喜助が勝手に解釈してる。		テキストの解釈
37			1															そういうことを伝えたかったかもしれないのに勝手に解釈してるっていうのが言いたかった。		意味の明確化
38						1												前の段階で弟が「殺してくれ」って伝えたからこそ、目を見てそういう解釈をしたと思う。		テキストの解釈
39						1												「伝えられない」っていうのとはまた違ってくるような気がします。		
40					1													解釈とかしなくても、p.129とp.130では、目つきが同じわけですよ。		テキストの解釈
41					1													抜いてくれっていうのは殺すって意味だから、殺してくれって言ってるわけだから。		
42								1										p.129 l.6（早く死んで兄貴に楽がさせたい）と、p.130(早くしろ早くしろ)は、同じ考えではない。		テキストの解釈
43								1										D のゲームの話と同じで、他のことを何も多分考えてないので「意思を考える力が欠如した」と言える。		
44									1									G と同じ意見で、兄貴に面倒かけたくないから自分の喉笛を切ったところまでは自殺じゃないですか。		テキストの解釈
45									1									喉笛を切る前までは、意思の判断ができる。アルツハイマーとかそういう特別な病気じゃないから。		
46									1									裏を返せば、安楽死する直前は、誰もが、正常な判断ができてない状態なんじゃないか。		
47					1													死のうと思った直前を、普通にちゃんとした判断とは多分言わないんじゃないか。		
48					1													兄さんが働いて、自分を養ってくれてて、そういうのがずっと続いたら精神的に負荷もかかる。		テキストの解釈

No	教師	生徒 A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
49					1													精神的な負荷のない状況の判断ができないと思うから、ちょっと異常なんじゃないかな。		
50										1								僕のおじいちゃんが癌で亡くなったんですけど。毎日「生きたい」って、迷惑かけてる人に言ってて。		例示（実体験）
51										1								弱っているからといって、そういうの、意識が一切してないのはなくて、その、自分……		
52		1																今言えなかったら、ちょっと回してもらったら。		安全性の確保
53											1							お父さんとお母さんが「安楽死を認める法律が出来たら、迷惑をかける場合に殺してほしい」って。	④「安楽死の是非」	例示（実体験）
54											1							ひいおばあちゃんが認知症になって、お母さんが会いに行くたび「あんた誰？」とか言われて。		
55											1							でも、最近のことは忘れても、２０歳の時とか若いときの記憶はすごい覚えてるらしくて。		
56											1							意思が正常に働いてる時、私はもしそうなったら、安楽死があったら、私はすすめると思う。		
57											1							ひいおばあちゃんのように、意思が衰弱してても、昔の話とかそうやって覚えてるところもある。		
58											1							認知症やからということで簡単に殺すのは、話が矛盾してるかもしれないけど、したくないなあ。		
59		1																Jに賛成。認知症の番組を見て、「生きるのが辛い」っていうのも分かるんですけど。		
60		1																Jが言ったように、認知症になってもモンスターになるわけじゃないし、人には人の心がある。		
61		1																考える力は欠如していても、少なくとも感情はあるはずなんです。		
62		1																「兄に迷惑をかけたくない」っていう感情が働いてるじゃないですか。		
63		1																そういう感情があって「死ぬ」って考えてる。だからといって殺していいのかというと違う。		
64		1																その人の感情を尊重しつつ、それが本当に理解できたなら、安楽死させる方にいくんじゃないかな。		
65												1						僕自身が認知症なわけじゃないから、なった場合のことを考えるのは難しいんやけど。		
66												1						喜助の場合は、自分が生きていても何も影響を及ぼさないことを悟ったから、死ぬを選んだのかな。		テキストの解釈
67												1						末期のほうに近づいたら、もう自分のお母さんとか娘とか息子を見ても、誰か分からない。		
68												1						喜助の弟の場合は、喜助を見てもお兄ちゃんだと分かるし。認知症の場合だったら…		テキストの解釈
69												1						実はちょっとまだ、完璧にまとまってはないけど。		無知の表明
70												1						自分が生きていて何か起こるか起こらないかというのを悟ったら、「死にたい」と言うんじゃないか。		
71	1																	ＪもAも言ってくれたと思うんですが、そのためらう感じはすごくよく分かります。		共感
72	1																	あの、えー、何を言おうと思ったんやったかな。		

No	教師	生徒 A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
73	1																	問いは「意思を考える力が欠如した人は、安楽死させるべきか」ですね。まだしゃべってない人。	⑤「安楽死の本質」	論点整理
74													1					認知症の人はすべて忘れるが、喜助はお兄ちゃんがいるから、ちょっと違うんじゃないか。		テキストの解釈
75									1									JやAの考え方って、アルツハイマーの人自身じゃなく、周りの人がどうさせてあげたいかになってる。		視点の変更
76									1									安楽死がなんでだめなのかは、認めた周りの人の心に傷が残るから、だめなんじゃないか。		
77									1									「意思を欠如した」という例で、ペットとかどうかなあ。言葉絶対話せないじゃないですか。		
78									1									ペットの安楽死の基準があるらしくて。飼い主と医者が観察するんです。観察して得点をつけて。		
79									1									安楽死っていうのは、周りから見た人の心の問題だと思って。		
80									1									この問いは、その本人の気持を考えてもどうしようもならないことってあると思う。		
81									1									周りから見た人の判断がどうなるのかっていうのも考えたらいいかな。		
82											1							Ｈの話を聞いて言いたいことが二つあって。		他人の発言をふまえる
83											1							一つは、お母さんと、安楽死が認められれば「認知症なったときに迷惑かけずにすむね」って。		例示（実体験）
84											1							医療が進みすぎるっていうのもよくないなって思って。進みすぎた分、見返りが返ってくる。		
85											1							逆にこっちはしんどいのに、死にたいのに、なんで生かされんねんみたいな感じで。		
86											1							二つめは動物の話。獣医師のお父さんと話をしてた時に、ペットって安楽死認められてて。		例示（実体験）
87											1							お父さんの病院のほうでは、あんまり認めてないというか、したくはないけど。		
88											1							最善の手を尽くしましたが、やっぱり生かすか、安楽死の手がありますっていう感じで。		
89											1							一番ひどいって思ったのが、買った家がペット禁止で、飼えないから殺してほしいって。		
90											1							犬も命があるのに、人はなんでそんな簡単に殺せるんやろうなって思って。		
91					1													Ｄ君が「アルツハイマーは記憶がない」とか言ったんですけど、それは多分分からない。		反論
92					1													Ａ君が言った、本人の意思を尊重しながら、するかしないか決めてくみたいなやつですけど、		他人の発言をふまえる
93					1													裁判でもやっぱりえん罪が起きないように何回も裁判できる。死んじゃったら終わりだから。		根拠を示す
94					1													今の僕の意見が、Ｃの「異常な時のその人の人権は無視する」的な話に繋がってくると思う。		他人の発言をふまえる
95					1													異常かどうかっていうのはまあ、色んなまあなんか要素が関わってくるんだろうけど。		
96					1													その時に異常な判断してるか分からないわけだから、えん罪みたいな間違いを起こさないように。		

No	教師	生徒																発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P			
97					1													自殺もそう。その時の判断でもう終わらせないために、自殺もたぶん勧めない。	⑥安楽死の是非（本人の意思の尊重）	
98					1													「終わらせない」とかなんでそんなこと言えんの、って言われたら、後悔っていうものがあるからだ。		根拠を示す
99														1				D に反論。意思が欠如したからといって人権を否定するのはあんまりよくないと思ってて。		反論
100														1				軽度である程度まだ考えれる程度なら、その人によりますけど。その人を尊重したほうがいい。		
101														1				さっきのペットの話はたまたま犬であっただけで。人権を否定しているっていう感じになる。		
102														1				『高瀬舟縁起』では、医者は人を助けるじゃないですか。痛みから解放するとか楽にするとか。		テキストの解釈
103														1				その後、安楽死をさせてくださいと言ったら、安楽死させずに、苦しませておけって書いてあった。		
104														1				痛みから解放してあげたのに、もう無理ですとなったら苦しませておけっていうのは、ひどい。		
105		1																今の反論とDの主張では、視点が違うんじゃないか。		論点整理
106		1																D は、何も考えることができなくなった「しゃべれる植物状態」みたいな状態の話をしてる。		
107					1													違う。		
108		1																違うの？		
109					1													「自殺とか『死にたい』って言う人の人権」を無視した方がいいって言った。		
110					1													僕の主張の中には、「一秒前の自分と一秒後の自分は、今の自分と違う」ということが入ってる。		
111					1													死ぬとその先の再審がなくなる。その行為自体が色んな視点から考えることができなくなる。		
112					1													だから、そのそういう判断をした場合は、そいつの人権を全部否定したらいいっていう話。		
113	1																	え一持論はもう以上で。今しゃべりたい人手を挙げて。今いたら、はい、はい。		発言を促す
114												1						『高瀬舟縁起』の「苦しませておけ」にとらわれてる。		テキストの解釈
115												1						生きさせておくのが苦痛以外の何でもないという前提がみんなのなかにあるような。		
116												1						安楽死するっていうことは、希望も捨てることになる。		
117												1						D が言ったように、死んじゃったら何もなくなる。死ぬっていうのは最大の後悔。		
118												1						死んだ時点で後悔と言えない。そこを認めたらいけないから、今日本では禁止されてるのかな。		
119															1			んー、やっぱりやめとくわ。		
120																1		Dへ反論。異常な意識があるからこそ、その人の意思を尊重するべきだ。		反論

No	教師	生徒																発言（概要）	分節主題	発言の特性（コード）
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P			
121																1		自殺願望がある人はごく一部。その中で異常な意識を持つのは相当精神的に負荷がかかってる。		
122		1																言いたいことを言われちゃいました。		
123	1																	じゃあ、せっかくやから、一人だけ、しゃべってない人いこう。		発言を促す
124		1																しゃべってない人？		
125	1																	誰でもいい。そんなみんな、え、それはちょっとあれやな。誰でもいい。		発言を促す
126		1																誰でもいいって言われても。じゃあ、ねえ。		
127																	1	自分は、まあ(安楽死）させないべきやと思うんですけど。		
128																	1	その人間は、意思だけ欠けているけど、ごはんとかまだふつうに食べられるから。		
129																	1	ご飯たべれるけど、ご飯を食べるのに意思とかあまりいらないと思いから、させないべきや。		
計	11	17	8	4	26	9	1	2	10	2	15	11	1	6	1	2	3			